

茨城県収入証紙

(消印を押してはならない)

×整理番号	
×審査結果	
×受理年月日	年 月 日
×認可番号	

採取計画認可申請書

年 月 日

茨城県知事 殿

住 所

氏名又は名称
代表者の氏名

電 話 番 号 ()

登 録 年 月 日 年 月 日

登 録 番 号 第 号

採石法第33条の規定により、次のとおり採取計画の認可を申請します。

- (備考) 1) ×印の項には記載しないこと。
2) 本様式と併せて受取希望申請書（様式第31号）を提出すること。

1. 岩石採取場の区域

採取場の所在地		〇〇郡〇〇町〇〇		採取場の実測総面積 11,000 m ²			
区 分	所在地番	地目	面積 (m ²) (実 測)	所有者名	契 約 又 は 同 意 の 期 間		
今 回 採 取 す る 場 所	採掘箇所	〇〇郡〇〇町〇字〇〇	山 林	5,000	〇〇(株)	H17,4,1～ H21,3,31	
		〇〇郡〇〇町〇字〇〇	原 野	3,000	茨城森林管理署		
			小計	8,000			
	破 碎 ・ 選 別 場	〇〇郡〇〇町〇字〇〇	山 林	1,000	〇〇(株)		
	たい積場	〇〇郡〇〇町〇字〇〇	雑種地	400	△△ △△		H17,4,1～
〇〇郡〇〇町〇字〇〇		山 林	600	□□ □□	H21,3,31		
		小計	1,000				
沈 澱 池	〇〇郡〇〇町〇字〇〇	原 野	300	□□ □□	H17,4,1～		
	〇〇郡〇〇町〇字〇〇	雑種地	200	□□ □□	H21,3,31		
		小計	500				
そ の 他	〇〇郡〇〇町〇字〇〇	宅 地	500	〇〇(株)			
合 計			11,000				

- [注] 1) 所在地は小字まで記載すること。
 2) 採取場の実測総面積と面積欄の合計値は一致する。
 3) 区分ごとに小計を付すこと。

2. 採取をする岩石の種類及び数量

(単位：t)

種 類					廃土・廃石	計
採 取 量	計画期間の採取量					
	年 間 採 取 量					
	月間最大採取量					
	比 重 値 (t/m ³)					

[注] m³とtの換算は岩石の比重をもって行うこと。

3. 採取の期間

年 月 日から 年 月 日まで (年間)

(全体計画 年 月着手 年 月頃終了の予定)

4. 岩石採取の方法及び採取のための設備その他の施設に関する事項

(1) 他の行政庁の許可、認可関係

法令名	許可等の年月日	期間	区域	備考
自然公園法				
森林法（保安林内行為）				
森林法（隣地開発）				
道路法				
河川法				
大気汚染防止法				
水質汚濁防止法				
廃棄物処理法				
農地法				
茨城県公共物管理条例				
市町村公共物管理条例				
市町村への搬出路事前協議				

- 〔注〕 1) 許可書、認可書又は受理書の写しを添付すること。
 2) 申請中にある場合は、許認可等の年月日欄に申請年月日を記載し（申請中）と付記するとともに申請書の写しを添付すること。

(2) 採取方法

区分	採掘方法
露天掘り	階段採掘法 表土の厚さ m～ m 表土の除去範囲は切羽頂端から m以上 隣地との保全距離は最低 m 掘削面の傾斜角 度～ 度、階段の高さ m～ m、階段幅 m～ m 計画階段数 段、平均傾斜角(最高) 度、(最低) 度
坑内掘り	中段採掘法 採掘高さ m、採掘幅 m、採掘長さ m 柱房式採掘法 坑道の長さ m、坑道支保 残柱式採掘法 その他()

- 〔注〕 1) 添付する平面図及び縦横断面図と食い違いのないようにすること。
 2) 「保全距離」は、今回の計画で最も隣接地と近接する箇所の保全距離を記載すること。
 3) 「採掘傾斜角度」は、最高値と最低値を記載すること。

(3) 採掘手段

区 分	機械（器具）の名称	能 力	台 数
機械掘り	クローラードリル ○○	170PS	1台
	ブルドーザー ○○	200PS、2m ³	1台
	油圧ショベル □□	400PS、1m ³	2台
	ホイローダー △△	250PS	1台
手掘り			

[注] 能力の欄には馬力・容量を、コンプレッサーについては定置式又は移動式の別及び定格出力も記載すること。

(4) 火 薬

① 火薬の種類

火薬類使用の有無		<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無						
使用する場合の種類及び年間使用予定量								
火 薬 ・ 爆 薬 類					工業 雷管 (個)	電気 雷管 (個)	導火線 (m)	
火薬 (kg)	爆 薬 (kg)							
	アンホ	ダイナマイト	カーリット					

[注] 火薬使用の有無を○で囲むこと。

② 小割について

小割機使用の有無			<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	
名 称	性 能	台 数	1日平均稼働時間	1ヶ月平均稼働時間
○○○○	100t/h	1	2~3h	50~70h

[注] 小割機使用の有無を○で囲むこと。

(5) 破碎選別

区 分	機 械 の 名 称	能 力	台 数
機械破碎選別	ジョークラッシャー	300t/h、130kw	1
	コーンクラッシャー	200t/h、150kw	2
	インパクトクラッシャー	200t/h、80w	1
	スクリーン	80~100t/h、11kw	1
手 選 別			

(6) 機械運搬（場内運搬）

機 械 の 名 称	能 力	台 数	備 考
ダンプトラック	30t積	1台	

〔注〕 採取手段としての使用と共用する場合は、備考欄にその旨を記載すること。

(7) その他

下請の有無	下請に出す部門	下 請 す る 会 社	
有 ・ 無		氏名又は名称	
		代 表 者 名	
		住 所	
		電 話 番 号	

〔注〕 下請の有無を○で囲むこと。

5. 岩石の採取に伴う災害防止のための方法及び施設に関する事項

(1) 岩石の採取による災害の防止のための方法及び施設

① 採取場及びその周辺の公共施設等ならびに家屋その他建物の状況

採取区域の北側は県道〇〇線に面しており、これに平行して〇〇川が流れており、下流には300アールの水田が耕作されている。

また、東側300mには民家12戸と市営浄水場が存在し、南西部は民有林に面している。

② 採取場及びその周辺で予想される災害の態様と防止措置

予想される災害の態様	災害の及ぼす範囲	災 害 防 止 の た め の 措 置
隣接地の崩壊	隣接地 境界付近	・隣接地との境界は、地質と地層を考慮し、30m以上の保安距離を取っている。
亀裂又は陥没	表土部、切り羽、ベンチ	・保全区域に接する法面の傾斜は40° 以内とし、法面保護のため十分に芝張りを行なう。 ・地質と地層を十分考慮した採掘を行なう。 ・ 亀裂を発見した場合は、安全を確認しながら除去する。

浮石、落石、土砂等の崩壊	表土部、切り羽、ベンチ	<ul style="list-style-type: none"> ・採掘はベンチカット法とし、採掘中のベンチの高さは15m以下、小段の幅は15m以上、採掘終了後のベンチの高さは10m以下、小段の幅は3m以上とする。 ・表土の剥土は10m以上行き、地質走向と傾斜を考慮してできる限り高さを低くし、落石や土砂の崩壊を防止する。 ・当日の作業区域の点検は7:30と13:00に、採取区域全体の点検は1回/3月行なっている。 ・発破後の浮石の点検を十分に行なうとともに、発見した場合は、安全を確認しながら除去する。
車輛転落	切り羽、ベンチ	<ul style="list-style-type: none"> ・車輛や重機等の転落防止のため、通路の端に堰堤を設ける。 ・カーブや急な坂には、注意喚起のための看板を設置する。
人身事故	場内	<ul style="list-style-type: none"> ・採取場の出入口に門扉及び立ち入り禁止の看板を、採取場の周囲に防護柵を設置して第三者の立ち入りを禁止する。 ・沈澱地等の周囲に防護策を設置し、転落による災害を防止する。

[注] 特に掘下り採掘（付近の道路に接続する平面又は採掘跡の平場から下方に向けて採掘すること）については、付近の井戸、人家、道路及び河川等に影響がないよう注意すること。

③ 場外水の処理

場外水の <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 （ 採取場上部で集水された雨水 ）
措置状況：採掘区域上部に集水枡を設置して水路を設けて場外に排水し、採掘区域の切り羽・ベンチに場外水を浸入させない。

[注] 1) 場外水の有無を○で囲むこと。
2) () には、その種類を記入すること。

(2) 発破による災害の防止のための方法及び施設

① 飛石災害の防止措置

区 分	飛 石 災 害 防 止 措 置
危 険 区 域	発破箇所から半径100m
見 張 人 の 配 置	・採取場入口に見張人(2人)を配置し、危険区域に車輛及び歩行者を侵入させない。
発 破 予 報 の 方 法	・発破時間と発破警告の方法を示した掲示板を採石場入口に掲示するとともに、発破時開始5分前にサイレンを鳴らす。
発 破 警 告 の 方 法	・発破3分前にサイレンを鳴らす。
発破終了の通報方法	・安全確認後、サイレンを鳴らす。

飛石防止網の設置等	・穿孔方向と装薬量を調節するとともに、岩盤の状況等により飛石防止網を設置する。
発破時刻	・毎日10:00と12:00

② 発破音・振動の防止措置

発破箇所周辺の岩盤の状況により装薬量の規制や段(瞬)発雷管の使用を行い、騒音や振動の防止に努める。

(3) 破砕選別施設における災害の防止の方法及び施設

騒音災害	<ul style="list-style-type: none"> ・破砕機は独立コンクリートに設置し、クッションゴム等を使用することにより騒音(振動)の発生を防止する。 ・振動節については、ゴム網の使用、並びに一部を建て屋で囲って騒音を防ぐ。 ・原則として、午前8時以前と午後5時以降の操業は行なわない。
粉じん災害	<ul style="list-style-type: none"> ・集じん機により粉じんの発生を防止するとともに、高圧噴霧散水、防塵カバーの設置を行なう。
その他の災害	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所周辺に職員がいないことを確認してから始動する。 ・危険箇所に安全柵、安全カバーを設置するとともに、看板を設置して注意を喚起する。 ・ベルトコンベアに非常停止装置を設置している。

(4) その他の施設等における騒音災害及び粉じん災害の防止方法及び施設

騒音又は粉じん発生源	抑制措置又は防止措置
削岩機・重車輛機械	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音伝播の低い機種を選択して使用する。 ・原則として、午前8時以前と午後5時以降の操業は行なわない。
採石場、たい積場	<ul style="list-style-type: none"> ・スプリンクラー等による散水を行ない、粉じん飛散を防ぐ。
場内及び通路	<ul style="list-style-type: none"> ・場内には散水車により散水を行ない、防じんに努める。 ・県道に面した通路は舗装し、職員が常時清掃するとともに、タイヤ洗場を設置する。

(5) 汚濁水の処理の方法及び施設

① 場内水等を排水する場合の措置

区 分	測定場所	測定年月日	分析者	測定項目			処理方法
				流量	PH	透視度	
場内水の排出 	①採取場 入口			m ³ /日			場内水は全て沈澱池に集水し、土砂を沈降させ、上水を沢へ放流する。
	②沈澱池 入口			m ³ /日			
	③沈澱池 出口			m ³ /日			
未処理排水の処理 	①採取場 入口			m ³ /日			
	②採取場 出口			m ³ /日			

[注] 1) 測定頻度は、降雨時及び水質の汚濁が認められたときなど、必要に応じて実施するものとする。
 2) 流量は、年平均量を日量に換算すること。

② 浚渫物の処理

有効水深が2m程度確保されるよう定期的に浚渫を行い、沈澱物は乾燥のうえ、堀下がり跡地に廃土とともに埋め戻している。

③ 碎石の生産工程で発生する汚濁水の処理の方法及び施設

水 洗	循環使用 ・ 排 水		取水源
	(使用水量) m ³ /日	(取水量) m ³ /日	(排水量) m ³ /日
水処理施設	専 用 共 用 ()		面積 m ²
沈 降 剤	(名称)		(1ヶ月平均使用量) kg/月
汚 泥 脱 水 装 置	(性能)	(台数) 台	(1ヶ月平均稼働時間) kg/月

脱水ケーキの処理の方法	
-------------	--

[注] 使用水量は、取水量に循環回数を乗じて算出すること。

(6) 廃土又は廃石のたい積の方法及び施設

たい積可能な量 (廃土または廃石の発生量)	1,000,000 m ³ (300,000 m ³)
たい積の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・面積1,000m²のたい積場に、高さ5mごとに3mの小段を設け20mまでたい積し、のり面傾斜は30度とする。 ・たい積場南側800mに県道が位置しており、たい積場の崩壊と廃土や廃石の流出防止のため、1mたい積する毎にブルドーザーで転圧を行ない、のり面はパワーショベルで転圧する。 ・有効利用により、たい積物の減量化を図る。
周辺の地形等	<ul style="list-style-type: none"> ・土質試験により基礎地盤の確認を行なっており、湧水はない。 ・上流から水や土砂が流入する恐れは無く、下流に人家や公道はない。
排水施設	・場外水や雨水が入らないよう排水路を設置するとともに、たい積物の含有水を排出させるため暗きよを設置する。
安定計算の結果 (積算根拠を記載すること)	安全率 $\boxed{1.5} \geq 1.2$ 積算根拠は別紙のとおり。
安定計算を行わない理由	
土留施設	・法面の強度計算を行ったうえで、コンクリートのよう壁を設置している。
のり面の状況	・粉じん発生防止とのり面保護のため、完成したのり面から順次、速やかに播種、覆土植栽を行なう。
維持管理の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・排水施設、土留施設、のり面の状況等について、定期的な点検及び管理を行い、写真とともに記録を保存する。 ・必要に応じて降水量、沈下量など安全上必要な測定値の測定を行なう。

[注] たい積方法、防災施設の構造は図面で示すこと。

(6) 廃土又は廃石のたい積の方法及び施設（掘り下がり採石場跡地の場合）

たい積可能な量 (廃土または廃石の発生量)	1000,000 m ³ (300,000 m ³)
たい積の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・深さ20mの掘り下がり跡地の中1,000m²に、高さ5mごとに3mの小段を設け15mまでたい積し、のり面傾斜は30度とする。 ・1mたい積する毎にブルドーザーで転圧を行ない、のり面はパワーショベルで転圧する。 ・有効利用により、たい積物の減量化を図る。

周 辺 の 地 形 等	<ul style="list-style-type: none"> ・掘り下がり跡地は、安定した岩盤内にあり、湧水はない。 ・周囲から水や土砂が流入する恐れは無い。
排 水 施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・凹地に溜まった水は、たい積物に影響がないよう排水路する。 ・汚濁している場合は、沈澱地を經由して排水する。
維 持 管 理 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・転落防止のため、柵を設置している。 ・排水施設、のり面の状況等について、定期的な点検及び管理を行い、写真とともに記録を保存する。 ・必要に応じて降水量、沈下量など安全上必要な測定値の測定を行なう。

[注] たい積方法、防災施設の構造は図面で示すこと。

(7) 脱水ケーキの処理の方法及び施設（岩石採取場内の施設に限る）

脱 水 ケ ー キ の 発 生 量	平均 300 t/年	平均 30 t/日
処 理 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・1,000㎡に高さ5mごとに3mの小段を設け、のり面傾斜は25度でたい積する ・たい積場の西側600mに水田があるため、脱水ケーキをフィルタープレスにより圧縮脱水したうえで石灰等改良材を混合し、廃土・廃石と交互に転圧しながら高さ20mまで盛土する。 ・たい積物が環境に悪影響を与えないよう、関係法令を確認し、遵守する。 ・有効利用により、たい積物の減量化を図る。 	
周 辺 の 地 形 等	<ul style="list-style-type: none"> ・土質試験により基礎地盤の確認を行っており、湧水はない。 ・上流から水や土砂が流入する恐れは無く、下流に人家や公道はない。 	
排 水 施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・場外水や雨水が入らないよう排水路を設置するとともに、たい積物の含有水を排出させるため暗きよを設置する。 	
土 留 施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・法面の強度計算を行ったうえで、よう壁を設置する。 	

[注] たい積方法、防災施設の構造は図面で示すこと。

(8) 原石、製品及び廃土等の運搬に伴う措置

1日当たりの平均搬出量	ダンプ等の種類	平均台数	過積載防止方法
t	t車	台	
	t車	台	
	t車	台	
	t車	台	

地域の交通事情により 配慮が必要な事項	
------------------------	--

(9) 採取終了時等における採取跡の措置の方法及び施設

① 採取終了時（全体計画終了時）

採取跡の傾斜面のこう配、のり面の整形、緑化その他の措置について記載すること。

② 採取が終了し当該跡地が最終残壁となる区域及び当分の間採取を行なわない区域

6. 岩石の賦存の状況

(地形の状況)

採取区域の中央部を南から北に向かって尾根が伸びており、南境界線では500mLであり、区域外ではさらに高度を増している。

北境界線では、200mLで県道に接している。

尾根の東、西は沢になっており、尾根の斜面はこの沢まで緩やかな傾斜となっている。

(地質構造等)

本区域一帯は、たい積岩である砂岩、頁岩、粘板岩の互層であり、走向はほぼN30° E、傾斜40° NWである。

砂岩層は約400mと推定され、厚さ1～2mの頁岩、粘板岩層を多数挟在している。

大きな断層、褶曲は認められない。

層理、節理も小さなものは多数認められるが、大きなものは認められない。

地表は深さ5mくらいまで風化岩で覆われており、可採量は約5000万tと推定される。

【地表踏査年月日】 年 月 日～ 年 月 日

【地表踏査者】

氏名		
経歴	○年 ○月 ○日	○○大学(○○専攻)卒業
	○年 ○月 ○日	○○会社就職
	○年 ○月 ○日	技術士(○○)取得
	○年 ○月 ○日	採石業務管理者試験合格
	○年 ○月 ○日	○○組合採石災害防止委員会委員任命

7. 採取する岩石の用途

(1) 砕石の場合

(単位：t)

採取しようとする岩石の名称	年間生産量	年間生産量の製品別内訳					計
		道路用	コンクリート用	鉄道道床用	砂	その他	
計							
主な仕向地							

(2) 石材又は工業原料の場合

(単位：t)

採取しようとする岩石の名称	年間生産量	年間生産量の製品別内訳					工業用原料
		切石	間知石割石	割くり石	その他	小計	
計							
主な仕向地							

8. 採石業務管理者監督計画書

当該採取場 を管理する 事務所	名 称			
	所 在 地			
	電話番号			
採石業務 管 理 者	氏 名	合格・認定番号	氏 名	合格・認定番号
当該採取場の管理機構				
当該採石業務管理者が、当該採取場において認可計画に従って岩石の採取及び災害の防止が行われるよう監督するための具体的な計画				
事 項		計 画		
採取計画の作成				
採取の監督				
災害防止に関する教育				
帳簿の記載及び報告				
災害が発生した場合の措置				

〔注〕 主として採石業務を管理する者に、◎を付すこと。